

開館10周年記念 I アートリンクとちぎ2007 小杉放菴展

小杉放菴記念日光美術館は、今年10月に開館10周年を迎えます。これを記念して、秋から新年にかけて3回連続シリーズで「小杉放菴展」を開催します。その第1弾として今回は、栃木県立美術館が所蔵する小杉放菴の作品すべてをご紹介します。

小杉放菴の画業について、多くの皆さんに知っていただく絶好の機会ですので、ぜひご覧ください。

▶アートリンクとちぎ2007とは

2007年度に施設改修を行っている栃木県立美術館が、工事期間中に所蔵する作品を県内外の美術館に貸し出し、展示する活動のことです。

会 期：9月8日(土)～10月14日(月)

開館時間：午前9時30分～午後5時

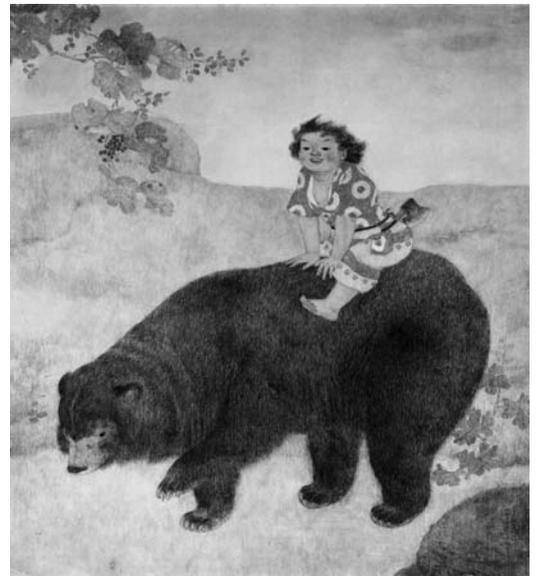
※入館は午後4時30分まで

休 館 日：毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日を休館)

入 館 料：一般…700(300)円 大学・高校生…500(200)円

小・中学生…300(100)円

※()内は市民割引券を利用した際の料金



小杉放菴「金太郎遊行」
昭和19年 油彩 カンヴァス 額装 150.0 cm×136.0 cm
栃木県立美術館所蔵

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

『本の題名に気を付けましょう』

図書館で本を借りて、いざ読み始めたなら、以前に読んで本だったのがすっかりした、という経験はありませんか？

海外の作品を借りる際は、ちよつとした注意が必要です。それは、題名です。同じ作品でも、翻訳者によって題名が違ってくる場合があるからです。その例をいくつか挙げてみましょう。

- 「十五少年漂流記」と「二年間の休暇」
- 「ああ無情」と「レ・ミゼラブル」
- 「千夜一夜物語」と「アラビアン・ナイト」
- 「巖窟王」と「モンテクリスト伯」
- 「星の王子さま」と「プチ・プランス」
- 「長いお別れ」と「ロング・グッドバイ」

本を楽しむコラム

図書館へ行こう!

邦題(海外の作品の日本における題名)の付け方は、もとの題名を日本語に翻訳するのが一般的です。ほかにも、元の題名の発音そのまま邦題とする場合や、元の題名とは全く関係なく、物語の内容や雰囲気から翻訳者が創作して付ける場合があります。それでは、同じ作品に複数の邦題が付けられた例を紹介しましょう。

- 「ライゲートの大地主」、「ライギットの謎」、「なぞの大地主」、「十二時十五分の惨劇」、「疑問の十二時十五分」、「やぶれた手紙」、「死人の手紙」



どうです? とても同じ作品に付けられた邦題とは思えないでしょう。

先ほど挙げたように、有名な海外の作品でも、邦題が違う場合があります。海外の作品を借りる際は題名だけでなく、大筋の内容も確認するようにしましょう。